



地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
環境情報部 技術支援グループ 担当：下元、西井
TEL：06-6972-5810 FAX:06-6972-7665

プレスリリース

平成28年2月10日 14:00

大阪科学・大学記者クラブ 会員各位
大阪経済記者クラブ 会員各位
同時提供先：大阪府政記者会（大阪府報道提供）

大阪発の優れた環境技術「ゴールドエコテック」に3技術・製品を選定しました

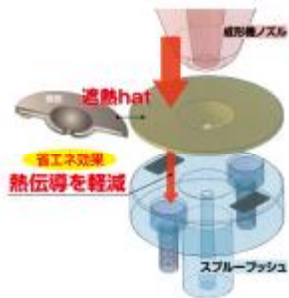


地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所は、平成27年度第2回おおさかエコテック（環境技術評価・普及事業）*の技術評価の結果、下記1の3技術・製品をおおさかエコテックのなかでも特に優れた技術である「ゴールド・エコテック」に選定しました。

同技術・製品には、下記2のゴールド・エコテック授与式において大阪府知事から「ゴールド・エコテック授与書」が交付されます。

「おおさかエコテック」への申請は、随時受け付けています。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

記

1 評価結果（詳細は別紙をご覧ください）

樹脂成形の省エネを実現する「遮熱hat（ハット）」 (株)新日本テック	フィルム段差の吸収でロスを低減する巻取りコア「e-コア」 (株)加貫ローラ製作所	レアメタル使用量を削減したリユース可能な冷間鍛造金型 マツダ（株）
	 フィルム段差をゴムが吸収しロスを低減	 成膜前 成膜後

2 ゴールド・エコテック授与式

- 〇 日時：平成28年2月16日（火） 午後3時～4時
- 〇 場所：大阪府公館（大阪府中央区大手前2丁目1-46）
- 〇 備考：本式典は、おおさかストップ温暖化賞表彰式と合同で行われます。

※ おおさかエコテック（環境技術評価・普及事業）とは



大阪府内の中小・ベンチャー企業が開発した先進的な環境技術・製品を当研究所が評価・PRする事業です。

平成15年度に開始して以来、今回を含め92技術・製品を評価しました。（平成28年2月現在）

URL：<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/shien/etech/>

ゴールド・エコテック選定技術の概要

技術・製品名	申請者名	評価結果及び分野	技術概要
樹脂成形の省エネを実現する「遮熱hat (ハット)」	株式会社新日本テック (大阪市)	 <p>ゴールド・エコテック</p> <p>省エネルギー技術・製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本製品は、プラスチック射出成形機のノズルと金型との間に装着することで、双方の熱移動を軽減することにより省エネルギー効果を得る部品である。 熱移動の軽減は、ステンレス製メッシュの空隙部に真空セラミックバルーンを含有した特殊な塗料を塗布したものを、ステンレス外装部品ではさみこむことにより実現したものである。 樹脂の糸ひきや樹脂焼けの防止、バリ低減などにも効果があり、成形品質の向上も期待できる。 
フィルム段差の吸収でロスを低減する巻取りコア「e-コア」	株式会社加貫ローラ製作所 (大阪市)	 <p>ゴールド・エコテック</p> <p>資源の有効利用に配慮した技術・製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本製品は、工業、印刷及び包装用のプラスチックフィルム、シート、金属箔等の巻き取りに必要な軸芯に、新たな機能を付与したものである。 巻き取りコア表面層に段差吸収性の高いゴム素材を配置することにより、フィルム等の巻き取り時に発生する巻き始めのフィルム段差痕を軽減し、フィルムロスによる廃棄物や余剰生産の解消が期待できる。 ゴム表面の一部にフィルム貼り付け部を付加することにより、両面テープを使用せずにフィルムを巻き始めることが可能となるとともに、巻き解いた後のコアの再利用が容易となった。 ゴム配合処方および巻き取りコア専用製法により、軟化温度が60℃程度の低耐熱樹脂コアに対してもゴム施工ができるなど広い適用範囲がある。 

技術・製品名	申請者名	評価結果及び分野	技術概要
レアメタル使用量を削減したリユース可能な冷間鍛造金型	マツダ株式会社（大阪市）	 <p>ゴールド・エコテック</p> <p>資源の有効利用に配慮した技術・製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> Ⅰ 本技術は、冷間鍛造製品を製造するための金型等の製造に必要なレアメタルの使用量を削減するとともに、金型等の摩耗部分を再生し、長寿命化を実現するものである。 Ⅰ ポンチの基材部分には安価な素材を用い、先端部分のみに超合金素材を用いることにより、レアメタルの使用量を90%削減することができる。 Ⅰ 摩耗したポンチの再生は通常行われていなかったが、超合金の被膜を再生するコーティング技術によりポンチの再利用を可能としている。 <div style="text-align: center;">  <p>成膜前 成膜後</p> <p>パンチピン金型皮膜の製作例</p> </div>